

2013年日本のうたごえ祭典・女性合同曲

風よふるさとよ

きむらいずみ 作詩 安広 真理 作曲

★11月2日大音楽会・女性合同曲の本番指揮者は山本恵造さん、ピアノは山下和子さんです。

「風よふるさとよ」について

2011年秋、日本のうたごえ協議会が呼びかけた“原発ゼロの社会へ”歌づくりで入選詩に選ばれた山形の木村 泉の詩に曲を付け、安広真理が応募し入選曲となった。

安広真理は「福島から避難してきた人が、やり場のない想いをぽつりぽつりとつぶやいているように感じたので、合唱よりもソロや少人数で淡々と歌う方がしっくりくるような気がする。合唱で歌う場合も非常にデリケートなテーマであるだけに、歌い方に気を付けたい。」と語っていた。

今回「2013年日本のうたごえ祭典バージョンの楽譜で、全国の女性の皆さんの福島への強い思いがまとまり、集中力のある演奏になることを願っています。」とメッセージが寄せられた。

<この曲を演奏する指揮者の思い>

3・11はすべての核（原爆、原発）を地球から無くす事の決意を世界中に示す重要な出来事となった。ヒロシマを平和な広島に、フクシマを放射能の無い美しい福島にしなければならない。しかし現実には元通りの緑豊かな福島に戻す事は非常に長い年月が必要となっている。故郷を奪われた福島の人達の境遇を思うと無念でならない。私たちにできる事は、二度と原発の稼働を再開しないよう声を上げる事である。

歌の力は直接原発再開阻止はできないが、人の心を動かし世論を巻起す事はできる。「風よふるさとよ」を歌い広めることはこの曲の生まれた使命を果たす事でもある。精一杯メッセージの伝わる演奏を目指しましょう。

2012. 11. 18 山本恵造

連絡先

日本のうたごえ祭典・おおさか 女性実行委員会 事務局

北飯史子(きたいふみこ) TEL 0745-73-7213 FAX 0745-73-7216

パソコンメールアドレス: singsong_fumiko3@fol.hi-ho.ne.jp

「風よふるさとよ」を歌うにあたって

1番は故郷を吹き抜ける四季折々の風を思い、明るく爽やかに歌ってください。

2番は一転して震災・津波による原発事故と放射能汚染の恐怖を表現する為、原曲の音符の長さを変えています。言葉の頭を深く響かせ短く切って話すように歌ってください。

“あのひから〜”からは故郷、地域の人々と遠く離れ離れになった寂しさ、故郷の香りを運んだ風さえも放射能を運ぶ恐ろしい風となる虚しさを p ~ m p で歌ってください。

“かぜよおしえてよ〜”からは2回繰り返しますが、2回目に向けてより強く、深く故郷への愛着を f まで高めて歌ってください。フレーズの最後の“あいしていますと”は話すように息を混ぜるような表現で歌ってください。(本番は、時間の都合で1回目を省くかもしれません。) ←※省くことになりました。(6月)

間奏後の3番はいまだに元通りに戻らない愛してやまない故郷の情景、人々の温かさをしみじみと柔らかい表現で歌ってください。

“すべての〜”からは被災したフクシマの人々の願い(被災前の豊かな故郷を取り戻したい、原発再稼働をさせてはならない)を大きな世論となる風に託して日本中のみならず世界中に吹き渡らせようと f による大きなうねりで表現してください。

くり返しの部分はさらに強い願いを m p で子音をしっかりと響かせ、心の奥からの願いを伝え、この曲の唯一の f f に向けて徐々に盛り上げ会場の隅々まで届けるよう歌ってください。

合唱の最後の音符は非常に長いですが f f のまま音量、気持ちを落とさないでむしろより遠くへ届けるように歌い切ってください。

合唱は音符を切った所で終わりではなく、伴奏の最後の音が会場に染み渡り消え切るまで思いを胸に気持ちを届けてください。

全国の女性の皆さんの熱い熱い思いを大阪城ホールに響かせましょう。沢山のご参加を宜しくお願い致します。

2013年2月24日

山本恵造

「風よふるさとよ」を聞かれた方の感想です。

- ・今の私達の気持を代表して訴えてくださっているように思いました。
- ・考え、問われました。
- ・福島の悲しみ、怒りが伝わってきました。
- ・胸の奥までひびく曲です。
- ・被災地の情景が目に見えられました。
- ・横の高校生くらいの女の子が感動し、涙をながされていました。
- ・歌い続けていきたい曲ですね。
- ・舞台から「風がおこった」感じ伝わりました。